

## インフルエンザ定点当たり報告数

インフルエンザは定点把握対象疾患であり、医療機関の中から選定し、協力していただいている定点医療機関からのみ患者数が報告 3 ならば、1 つの医療機関で 1 週間に 3 人のインフルエンザ患者を診療した、ということになります。

この数字が 1 以上であれば、その地域は流行レベルに入ったことになり、10 以上なら注意報レベル、30 以上なら警報レベルの流行となります。警報が解除されるのはこの数字が「10」を切ってからです。

○2019-2020 シーズンの全国の定点報告（国立感染症研究所調査）：

2019 年第 38 週（9/16-9/22）の定点当たり報告数が 1.16 となり、全国的な流行開始の指標である 1.00 を超えました。

2018 年は、第 49 週で定点当たり報告数が 1 を超えており、2019 年が例年より早く 1 を超えたことから、国立感染症研究所による報告が 38 週から開始されました。39 週以降 1 未満となり、42 週で 0.72 まで低下しましたが、43 週（10/21-10/27）0.8、44 週（10/28-11/3）0.95 と再度上昇してありました。45 週で流行開始の指標である 1.00 を上回りました。

2019 年第 51 週の定点当たり報告数は **21.22**（患者報告数 105,221）となり、前週の定点当たり報告数 **15.62** より増加しました。

都道府県別では山口県（41.46）、宮城県（31.8）、埼玉県（29.57）、大分県（28.91）、愛知県（27.55）、富山県（26.88）、長野県（26.6）、北海道（26.28）、山形県（26.22）、福島県（26.17）、**熊本県**（25.84）、千葉県（24.76）、新潟県（24.54）、**鹿児島県**（23.64）、神奈川県（23.26）、秋田県（22.96）、広島県（22.72）、青森県（22.52）、東京都（22.3）、島根県（22.24）、栃木県（22.13）、**福岡県**（21.73）の順となっています。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況は、直近の5週間（2019年第47～51週）ではAH1pdm09（97%）、AH3亜型（2%）、B型（1%）の順でした。

詳細は国立感染症研究所ホームページ

(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-map.html>)をご参照ください。

○2019-2020シーズン 長崎市、長崎県の定点報告状況（長崎県感染症情報センター報告より）：

第51週（12/16-12/22）のインフルエンザ報告は、長崎市（19.76）、長崎県（17.1）で、第50週（12/9-12/15）長崎市（16.53）、長崎県（12.13）と比較すると、長崎市、長崎県ともに増加し、いずれも流行レベルの指標1を超えておりました。50週以降報告数が10以上（注意報レベルの流行）となりました。

長崎市は、40週、41週、42週と流行レベル（1以上）となりましたが、41週をピークに減少し、43週では1未満となりました。しかしながら、44週では、0.94と再度増加し、45週で1を超えました。

◎長崎県は、39週以降1未満となりましたが、長崎市が40-42週で1を超え、流行レベルとなりました。43週で1未満となりましたが、45週で1を超えました。さらに、50週で報告数が10以上（注意報レベルの流行）となりました。今後より注意が必要な状況になりました。

（長崎県感染症情報センターHPより抜粋、1部改変）

インフルエンザ等の感染予防のために、十分な休息、手洗い、うがい、マスクの着用等を心掛けてください。インフルエンザが疑われる症状として、のどの痛みや鼻汁・鼻づまり、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身のだるさ等がみられましたら、早めに医療機関を受診してください。